

建学の精神に基づく多様な人材育成や特色ある教育を展開し、公教育の一翼を担う私立学校は、本県の教育において、重要な役割を果たし、個性豊かで魅力ある学校づくりが期待されている。

今後、本格的な人口減少に加えて、DXの進展、AI等情報技術の急速な発達をもたらすグローバル化のさらなる進展、また、将来の予測が困難な時代とされるなか、県内私立高校が、県内外から選ばれる学校として、どのような取組や支援が必要か検討を進めてきた。

検討会の開催状況

第1回 (R7.2.14)

◆私立高校を取り巻く環境について現状認識を確認

- 人件費・物価高騰
 - 生徒確保
 - 熱中症対策
- に苦慮

◆検討会の方向性の共有

ひょうごの私学の特色・強みを伸ばすことで、私立高校の生徒確保につなげる

◆意見交換

生徒への支援と学校への支援が必要

- 留学生受入
- 部活動支援
- 高大連携
- 不登校支援 等
- 経常費支援
- 体育館の空調 等

県内私立高校・市町にアンケート調査を実施

第2回 (R7.8.27)

◆アンケート結果を共有

【私立高校】

- 入試状況
- 各校の強みや取り組みたいこと
- 地域連携 等

【市町】

- 私立高校への期待
- 私立高校と連携していること
- 国の無償化への考え 等

◆意見交換

- 人材確保
- 私学の魅力向上のための取組み

14:30～16:00

第3回 (R7.11.19)

◆とりまとめの検討

01 現状と課題

- 少子化の進展
- 人材確保
- 物価高騰等による財源不足

02 魅力向上のための取組

- 特色ある教育
- 教育環境の充実 等

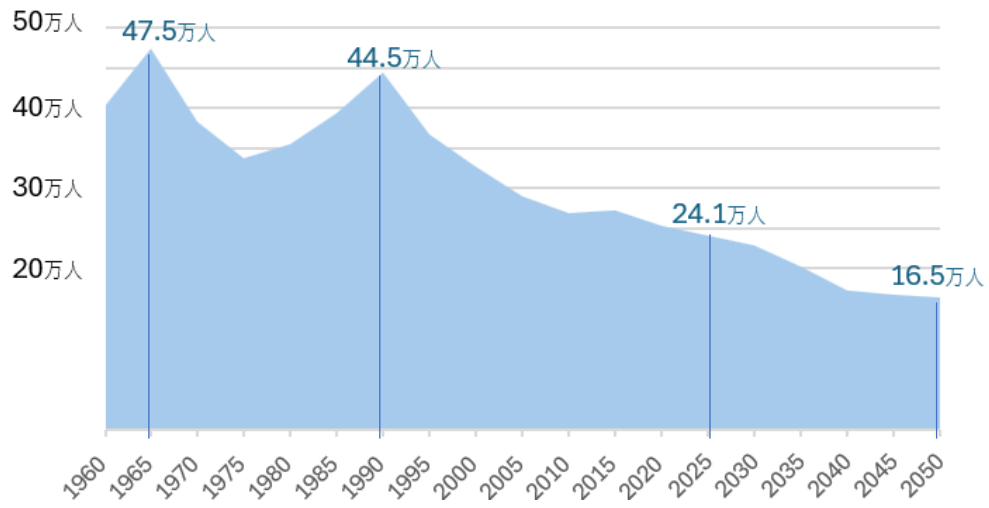
03 取組・支援の方向性

- 人材確保
- 特色教育の磨き上げ
- 生徒保護者への支援
- 物価高騰対策 等

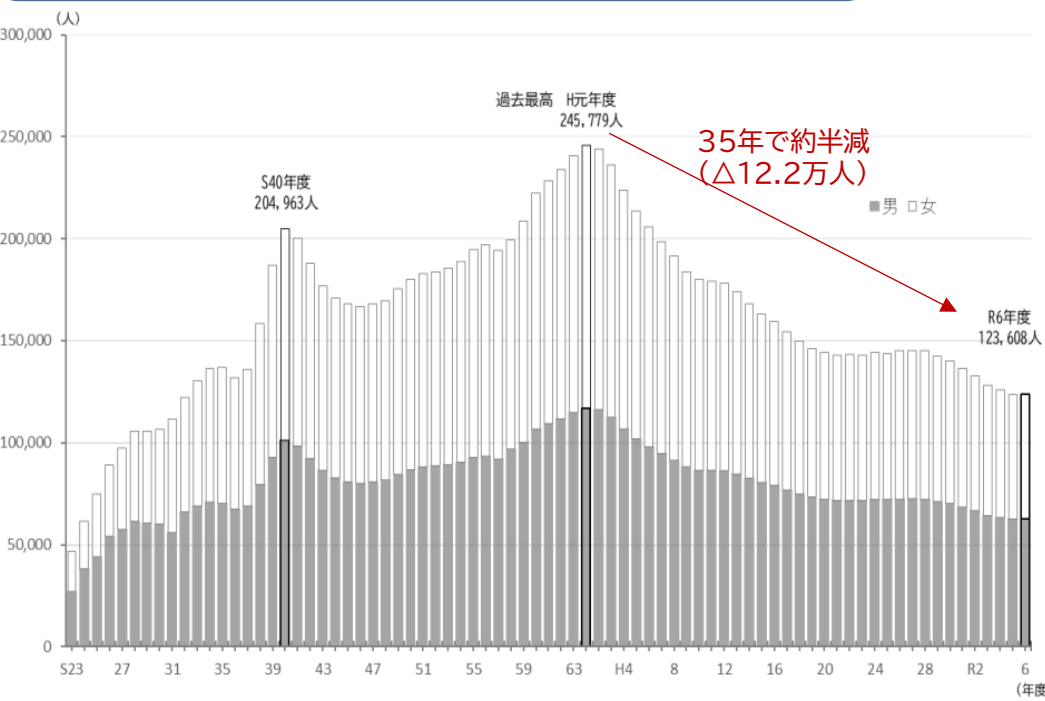
私立高校をとりまく現状

①本県の15～19歳人口の推移 ※2025～は社人研 将来推計人口

団塊ジュニア世代の1990年と比較すると2025年時点で半分近くに減少。今後も少子化により高校進学者数は減少していく見込み。

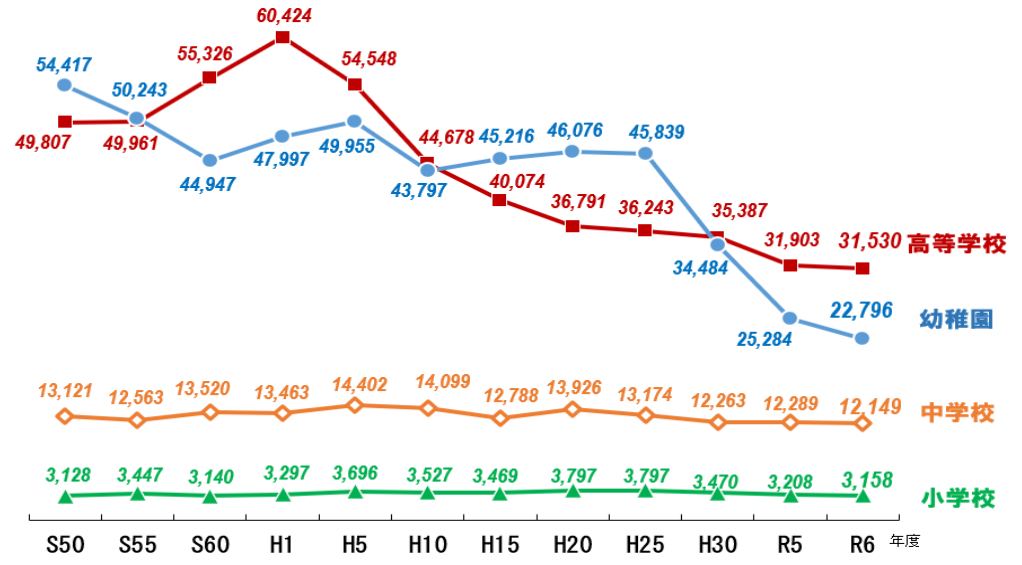


②本県の高等学校(全日制・定時制)の生徒数の推移



③本県の私立学校の生徒数の推移

私立高校生は、②と同様に、平成元年をピークに大きく減少。



④R8年度高等学校進学希望者数等調査(一部抜粋)

公立から県内・県外の私立や県内通信へ希望が流れており、高校無償化の影響が一定出てくる可能性もある。

各年9月1日時点

		R8	R7	R8-R7
国公立中学校卒業予定者数		43,147	43,006	+141
高校等進学希望者数		42,797(99.2%)	42,630(99.1%)	+167(+0.1%)
県内	公立(全日制)	33,807(78.4%)	34,363(79.9%)	△556(△1.5%)
	公立(定時・多部)	838(1.9%)	875(2.0%)	△37(△0.1%)
	私立(全日制)	2,691(6.2%)	2,160(5.0%)	+531(+1.2%)
県外	国公立(全日制)	284(0.7%)	247(0.6%)	+37(+0.1%)
	私立(全日制)	1,356(3.1%)	1,187(2.8%)	+169(+0.3%)
広域通信	県内本校	294(0.7%)	224(0.5%)	+70(+0.2%)
	県外本校	1,410(3.3%)	1,430(3.3%)	△20(±0.0%)
進学先未定		738(1.7%)	765(1.8%)	△27(△0.1%)
進路未定		137(0.3%)	182(0.4%)	△45(△0.1%)

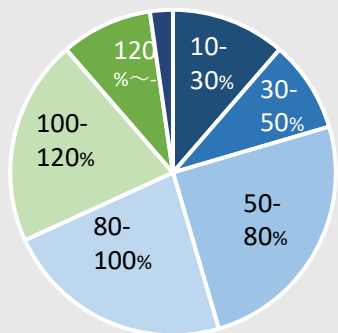
私立高校全校アンケート結果 ※51校中50校から回答

①高校入試

※高校募集無し(内部進学のみ) 6校

募集定員充足率

定員割れしている学校は、30校

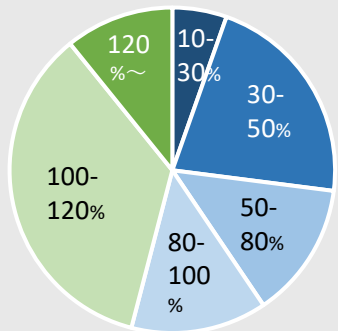
平均：79% (最大校：162%
最小校：14%)

44校

②中学入試

募集定員充足率

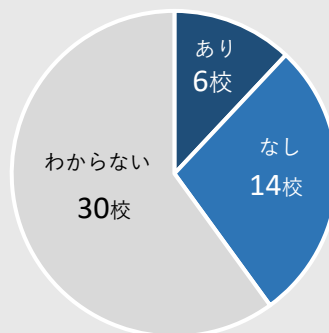
定員割れしている学校は、20校

平均：82% (最大校：130%
最小校：18%)

37校

③大阪無償化の影響

主に県南東部(阪神間)の私学への影響が見られる



【影響ありと回答した学校の記述】

- ✓ 大阪府からの志願者・入学者が減少している
- ✓ 大阪府民の併願者がほぼいない
- ✓ 説明会等で大阪府無償化のため兵庫県の高校は選択しないと聞いている

④その他

入試の傾向

- 少子化による受験者減
- 共学志向が高い(女子校が苦戦)
- 通信制志向の高まり
- 立地(交通の利便性)重視
- 公立志向の高い地域では太刀打ちできない

行政支援制度の影響

- 隣接府県の支援制度の違いによって、生徒の流入が期待できない。
- 神戸市の通学補助の影響でJR沿線校へ流れている。

入試制度

- 県立の複数志願・特色選抜は希望する学校への選択というより、定員充足のためのものでないか。
- 無償化の中、公私協働で入試制度を考えるべき
- 公立高校の開門率が高いため、併願者の実入学者数が少ない
- 私立と公立、公立中と公立高の連携が少ない

授業料軽減

- キャップ制は絶対に避けてほしい

その他

- 学校独自の支援や広報をやりにくい
- 教育を特色化・魅力化し、どうアピールしていくかが重要

①大阪府の授業料支援制度

私立高校・国公立高校等の授業料無償化

・所得制限なし

・新標準授業料 63万円まで無償化
(63万円を超える分は学校負担)

・就学支援推進校に通う生徒は対象

・入学金・制服代・修学旅行積立金等は対象外

・実施時期

令和6年度の高校3年生から段階的に実施し、令和8年度に全学年で授業料完全無償化をめざす

キャップ制

- ・府の補助上限額を63万円に設定
- ・授業料63万円(年額)までは、国の就学支援金とあわせて公費で負担。超える授業料は私立高校等の協力による軽減により保護者負担をなくす。
- ・原則5年間は新標準授業料を適用。

就学支援推進校

- ・府の授業料支援補助金は、就学支援推進校に支給
- ・授業料等を改定する場合は、
 - ①改定理由は、原則、生徒の安心安全及び教育環境の充実を図るもの
 - ②府への事前協議が必要

②大阪府－兵庫県間の高校生の流出入状況

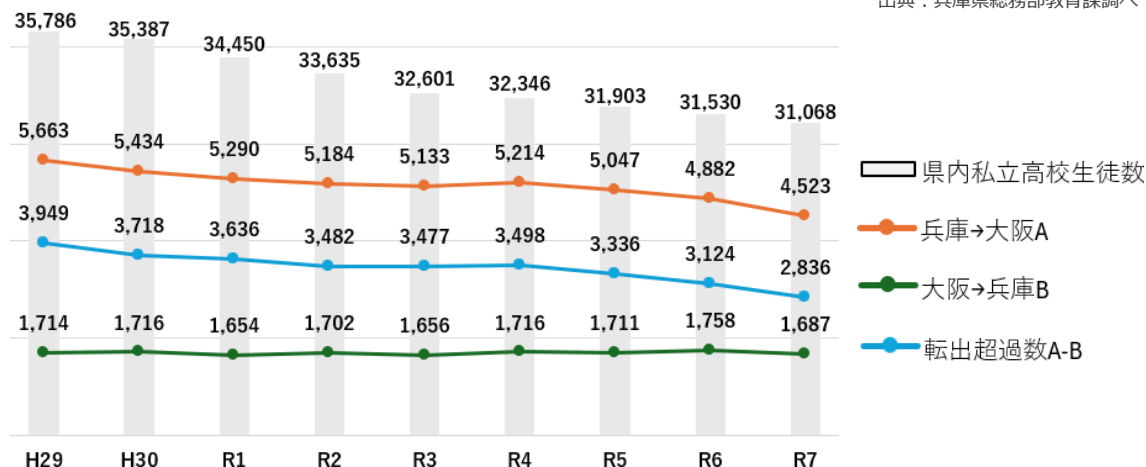
大阪への流出は減少傾向しているが、兵庫への流入は1,700人前後を維持し、転出超過は減少傾向

(単位:人)

区分	H27	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R7-R6
兵庫⇒大阪 流出	5,901	5,290	5,184	5,133	5,214	5,047	4,882	4,523	▲ 359
大阪⇒兵庫 流入	1,778	1,654	1,702	1,656	1,716	1,711	1,758	1,687	▲ 71
兵庫⇄大阪 流入－流出	▲ 4,123	▲ 3,636	▲ 3,482	▲ 3,477	▲ 3,498	▲ 3,336	▲ 3,124	▲ 2,836	288
県内私立高校 生徒数	36,642	34,450	33,635	32,601	32,346	31,903	31,530	31,068	▲ 462

※H27 県立高校学区再編16学区→5学区 ※県内私立高校生徒数:中学校からの内部進学を含む

出典:兵庫県総務部教育課調べ



③大阪府からの通学者が多い県内私立高校









阪神地域の学校やスポーツに強い学校、学びの多様な学校等の特色が強い学校は大阪府をはじめ他府県からの通学者が多い。

大阪府からの通学者が在校生に占める割合

区分	R4		R5		R6		R7		
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
県内私立高校生徒数	32,346	—	31,903	—	31,530	—	31,068	—	
うち大阪府からの通学者	1,716	5.3%	1,711	5.4%	1,758	5.6%	1,687	5.4%	
県内私学 所在地別	阪神地域	1,160	3.6%	1,140	3.6%	1,155	3.7%	1,133	3.6%
	神戸地域	478	1.5%	484	1.5%	502	1.6%	453	1.5%
	その他地域	78	0.2%	87	0.3%	101	0.3%	101	0.3%

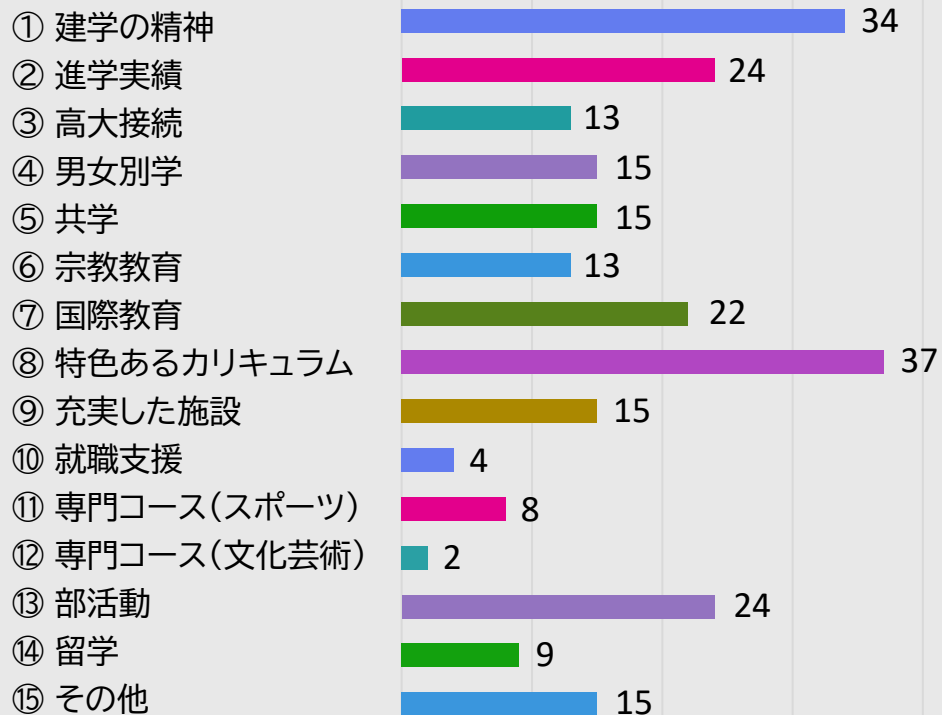
私立高校全校アンケート結果

生徒確保や教員等の人材確保、特色ある教育の充実、財源不足、施設設備の充実、広報・情報発信の強化等の課題がある。

 生徒確保	<ul style="list-style-type: none"> • 少子化による生徒数減少 • 他校との競争激化 • 併願者の歩留まりが低い • 生徒が魅力を感じる教育が必要 • 広報力を高めたい 	 財政・資金繰り	<ul style="list-style-type: none"> • 教育充実や施設設備に必要な財源が不足 • 教職員の増員や待遇改善のための財源が不足 • 円安等による海外研修旅行の高騰 • 広報活動やメディア活用のための財源が不足
 人材確保	<ul style="list-style-type: none"> • 教員確保が困難 • 教員の働き方改革 • 教員の質・スキルの向上 • 教職員のモチベーションアップ • 広報人材の確保・育成 • 学校の文化・伝統の継承 	 施設設備	<ul style="list-style-type: none"> • 校舎・設備の老朽化 • 校舎・体育館等の耐震化 • 教育環境・ICT環境の整備不足 • 運動施設の充実 • 校舎の移転・再整備、施設更新が必要 • 部活動施設の整備
 特色ある教育	<ul style="list-style-type: none"> • 教育プログラムの質向上 • 探究活動の充実 • 学習支援の充実 • 学びの振り返りやポートフォリオの構築 • 不登校生徒への支援・学習評価 • 教育内容の魅力発信不足 • 部活動の外部指導員の確保 	 交通網	<ul style="list-style-type: none"> • 通学の交通手段の利便性が低い • 立地が悪く、地域交流や地域活動に制限がある
 外部連携	<ul style="list-style-type: none"> • 地域との交流機会が少ない • 近隣校との交流機会が少ない • 同窓会との連携 	 広報・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> • SNS等のメディア活用が不十分 • 魅力の外部発信力が弱い • 教職員の意識向上

私立高校全校アンケート結果

各校の強み・魅力



【その他】の内容

- ✓ 校風
- ✓ 利便性
- ✓ 広大な敷地
- ✓ 寄宿舎
- ✓ 自然に囲まれた校舎
- ✓ 海外・国内の研修旅行
- ✓ 中高大一貫教育
- ✓ 探究活動
- ✓ DXハイスクール、ICT教育
- ✓ 面倒見のよい教育
- ✓ 少人数教育
- ✓ 学習支援
- ✓ SSH
- ✓ 資格取得
- ✓ 不登校を経験した生徒を対象とする専門教育

■ 左記に関連する具体的な取組事例等

② 進学実績

学習支援	放課後の学習支援、学習合宿、補習
------	------------------

③ 高大接続

高大連携プログラム	大学開講授業の受講…大学進学時に単位認定
併設校との連携	大学での見学実習、大学教授の講義、地域貢献活動

⑦ 国際教育

国際教育	・インターナショナルスクールと連携した英語授業 ・英検講座 ・オンライン英会話 ・フランス語必修
海外国内の研修旅行	ホームステイ・ファームステイをしながら、 現地校での授業やアクティビティ体験

⑧ 特色あるカリキュラム

探究	・大学、企業、地域、附属幼稚園、近隣の小学校との連携 ・地域の方に取材
アントレプレナーシップ	企業と連携
キャリア教育	独自の「自己発見プログラム」、社会人準備講座、キャリアデザイン
多様なコース	セカンドキャリアを見据えた特別講座 (栄養学、心理学、コンディショニング等)を実施

⑩ 就職支援

資格取得支援	商業や介護の資格取得
--------	------------

⑬ 部活動

部活動	重点部活動制度、海外の団体と協定を締結し文化交流を実施、 大学施設の使用
-----	---

⑭ 留学

留学	・短中長期の留学制度 ・海外大学留学支援 ・海外の提携校（短期交換留学の実施）
----	--

⑮ その他

不登校支援	・特別なカリキュラムや学習環境を整備 ・別室授業・オンライン配信の実施
少人数教育	小規模校で、アットホームな雰囲気の中で、丁寧かつ手厚い指導
その他	・寄宿舎、学生寮 ・独自の奨学金制度 ・農業体験 ・独自設定科目、講座を開講 ・毎週プロジェクトマネジメント・タイムマネジメントの時間を確保し、自己管理・時間管理の能力を涵養

私立高校全校アンケート結果

取り組みたいこと

特色ある教育

- ①探究
- ②グローバル教育
- ③高大連携・企業連携
- ④キャリア教育
- ⑤ICT・情報教育
- ⑥アントレプレナーシップ
- ⑦多様な生徒への支援
(不登校、発達障害、ヤングケアラー)
- ⑧部活動

学校運営等

- ①環境整備
- ②教員の確保
- ③教員の資質向上
- ④広報・情報発信の強化



課題

特色ある教育

- ①探究
- ②グローバル教育
- ③高大連携・企業連携
- ④キャリア教育
- ⑤ICT・情報教育
- ⑥アントレプレナーシップ
- ⑦多様な生徒への支援
(不登校、発達障害、ヤングケアラー)
- ⑧部活動
(生徒の夢・目標への挑戦支援)

学校運営等

- ①資金不足
- ②教員確保が困難
- ③教員の資質向上
- ④広報人材・外部への発信力不足
- ⑤生徒数確保
- ⑥交通・立地条件

- ①～⑥・教育プログラムの質の向上
 - ・教員の質・スキルの向上
 - ・働き方改革との両立
 - ・地域や隣接校等との交流不足
- ② ・海外研修費用の高騰 ・通訳人材の確保
- ⑤ ・ICT支援員の確保 ・デジタル環境整備
- ・不登校支援員/発達障害等支援員の配置
- ・サポート教室の整備 ・学習評価
- ・外部指導員の確保 ・部活動施設整備

- 人件費・物価高騰、老朽化した校舎設備、空調整備、バリアフリー化、トイレ改修、教育充実
- 採用難、定年退職による人材喪失、待遇改善
- 待遇改善、研修機会不足
- SNS等のメディア活用が不十分
- 保護者負担軽減、魅力発信
- 交通利便性の低い場所への立地

私立高校全校 追加アンケート結果 (スライド7のアンケート結果を深掘りするため追加アンケートを実施)

私立高校の魅力を高めるために支援が必要な取組は、学校によって多種多様

⇒ 特色あるカリキュラム(探究/国際交流)、部活動支援(外部指導員)、学校運営(人材確保・経常費)、保護者生徒の負担軽減が多い

特色ある教育

特色あるカリキュラム	32
探究	6
グローバル教育	16
海外留学支援	4
国際交流	7
留学生受け入れ	5
高大連携	3
キャリア教育	4
アントレプレナーシップ	3
不登校支援	5
不登校支援員	1
別室登校	4
多様な生徒への支援	3
発達障害	3
ヤングケアラー	0
部活動支援	13
外部指導員	12
地域移行・地域展開	1

既存の留学支援や経常費特別補助では支援が不十分

教育環境の充実等

学校運営	28
経常費	12
人材確保	12
人材育成	1
広報・情報発信	3
保護者・生徒の負担軽減	11
授業料	6
通学費(定期代・通学バス)	5
施設整備	37
耐震改修	0
体育館の空調	10
LED化	3
バリアフリー	7
トイレ改修	6
ICT・DX	11

経常費の拡充、
人材確保支援
が必要

保護者・生徒
の負担軽減が
必要

物価高騰等
により支援
が必要

私立高校追加アンケート ※43校から回答
「各校の魅力を高めるために特に支援してほしい項目の上位3つを回答」

人材確保

■ 教員確保

教員志望者が減少し、公立教員の教職調整手当が引き上げられる中、私学の教員の採用が困難。

私学の教員志望者の増加につなげるため、私学の教員になるインセンティブが有効。

■ 部活動指導員

私立高校では部活動に力を入れている学校が多いが、各校独自で部活動指導員の確保が困難。

部活動指導員の確保につなげるため、部活動指導員の人材紹介が有効。

物価・人件費高騰対策

近年のベースアップや物価高騰の影響を受け、学校法人の運営に支障が出てきている。

公立学校では教職調整手当が引き上げられることから、私立学校においても教員確保のためにベースアップをしていく必要がある。

熱中症対策が急務であるが、体育館に空調を設置する財源がない。

経常費補助の拡充や物価高騰対策の支援が有効。

特色教育の磨き上げ

今後も少子化により生徒数が減少していく中、さらに生徒確保が困難になっていく。

また、国の高校無償化により、県内の公私立間だけでなく、近隣府県の学校との競争が激化することが見込まれる。

県内外の生徒から選ばれる学校となるために、他校にはない教育の特色化をより進めていかなければならない。

各校の教育の魅力が高めるため、各私立高校独自の特色ある教育の磨き上げの支援が有効。

生徒・保護者支援

R8年度から、国において私立高校も含めた高校の授業料が無償化される見込み。

大学生や県立高校生の負担状況と比較すると、私立高校生の入学金等の負担が重い。

私立高校生の負担軽減のありかたの検討が必要。

私立高校の役割

公教育の一翼を担っている	2
特色ある教育を提供し、多様なニーズにこたえている(進路選択の幅が広がる) ・学力・多様なコース・専門教育 ・部活動・不登校生徒	27
若年人口の維持定着を図る上で重要な要素であり私立高校の存在は非常に重要	1

私立高校の魅力を高めるために必要なこと

特色あるカリキュラムの拡充	10
進路・キャリア支援の強化	2
時代のトレンドに沿ったAI・デジタルリテラシー教育やグローバル教育の深化	1
進学実績	1
公立との差別化、特色の明確化	2
地域社会との連携(イベント協力、住民への講座開設)	3
魅力を直接知る機会をオープンハイスクール以外につくる	1
交通手段のさらなる確保	1

私立高校への期待

充実した学習環境や教育体制・カリキュラム、進路支援	14
個性適性に沿った教育	6
地域連携・地域貢献	3
地域・高校のブランディングと情報発信	2
OB・OGとのネットワーク	1
中学→高校への連携強化(支援が必要な生徒)	1
公立にできない独自の特色化・ブランディング化	1
市立高校との連携・協力	1

市町→私立高校への支援

教育活動への支援を行っている市町が多いが、各自治体によって様々な支援を実施

教育活動への支援	
進路指導	31
探究活動	5

生徒・保護者支援	
通学費支援	3
奨学金支援	1

学校への支援	
ふるさと納税	2
補助金	1

国無償化への考え

経済的な状況に左右されず希望する教育を受けられることは重要	16
保護者の立場では喜ばしいこと	1
国の責任と財源により措置を講ずるべき	2
公立高校の定員割れや統廃合、地域の活力低下を懸念	10
公立高校の支援・魅力化が必要	3
各地域の実情に応じた対策を検討する必要がある	2
私立高校は都市部に集中しているため、都市部と地方の格差拡大を懸念	1
公立高校の設置意義や利点等を明確化すべき 公立と私立の差別化	1
公立と私立の間の公平性をどう確保するのが課題	1
公私の教育バランスを保つ施策が必要	1
地元から大阪府の私学等に流出する可能性がある	2
大阪府との格差が依然として残り、県内高校の競争力低下に危機感	1
私立高校の教育水準を維持するための有料化は必要	1
無償化により、私立の学費の値上げや塾通いを誘発し、教育費増大を懸念	2
税の再分配の観点から適切な公費の投げ方なのか疑問	1
見解なし	4

大阪無償化の影響

影響はなかった	7
わからない	27
影響があった	0

【特記事項】

現時点でデータ上で目に見える変化はないが、中長期的な影響を強く懸念

検討会では、下記のご意見をいただいた。

- ・市町によって、通学交通費の補助やふるさと納税制度等の支援をいただいていることがありがたい。
- ・地域行事等に参加し、地域との結びつきを深めていきたい。

私立高校全校アンケート結果

市町と連携していること	
教育活動・探究学習	・自治体から課題提供してもらい探究学習を実施 ・フィールドの提供 ・区役所と連携した探究授業
地域行事	・部活動の発表機会の提供 ・行政イベントへの参加 ・さわやかあいさつ運動 ・町内会行事や清掃活動への参加 ・ボランティア参加
市施策への参画	・地域ケア会議への参画 ・認知症サポーター養成講座 ・街頭巡回指導 ・震災関連事業への参加
その他	・連携協定の締結 ・首長の学校訪問

市町と連携していきたいこと	
教育活動・探究学習	・市内企業との探究活動 ・探究学習をより深化させるためのフィールドの提供 ・キャリア教育のための行政の仕事紹介 ・SDGsなどの学習機会や協働 ・市町の仕事や市民の役割について講義
国際交流	・交流イベントの開催 ・海外からの修学旅行生の受け入れ ・姉妹都市との交流事業への参加 ・生徒主体の魅力発信の実施
防災	・防災行事の連携 ・火災想定避難訓練や豪雨土砂災害のワークショップ開催
健康福祉	・医療機関や保健所と連携することで、医療系進路への支援につなげたい
地域共生社会	・地域共生社会を考察するための実務者会等への参加
地域行事・市施策への参画	・地域活性化や町おこしへの参画 ・高校生の行政参加
部活動	・部活動における地域との連携
部活動の地域展開	・中高一貫校の中学生の参加
その他	・首長のキャリア教育

生徒たちの活躍・成長や地域活性化につながる事があれば、分野を問わず積極的に参加したいという回答も複数あった。是非、私立高校と市町の連携を深めていただきたい。